

これからの多賀町立博物館のあり方について（答申）

平成29年2月

平成29年2月10日

多賀町立博物館
館長 小早川 隆 様

これからの多賀町立博物館のあり方に関し、別紙のとおり答申いたします。

多賀町立博物館協議会

会 長	田村	幹夫
副会長	中川	信子
委 員	東	幸代
同	井上	尚世
同	土田	雅孝
同	丸尾	恭子

本協議会は、平成28年6月15日に諮問のあった下記の事項について、検討し、以下の結論を得たので答申する。

諮問事項

- 1 博物館の現状と課題
- 2 博物館の役割、機能について
- 3 博物館の施設について
- 4 博物館の運営体制について

答申

はじめに

平成11年3月に多賀町立博物館が開館し、18年が経とうとしている。平成5年3月にアケボノゾウの全身骨格化石が発掘されたことを契機に博物館が建設され、これまで自然、歴史、文化など様々なテーマの展示、教育普及活動を実施してきた。

この間、社会・経済状況は大きく変化し、人口減少や少子高齢化が進んだ多賀町を取り巻く状況は厳しくなってきた。博物館の運営にも見直しが求められている。開館当初は地域に密着し、住民とともに活動するという地域博物館を目指したが、現状ではその役割を十分に果たしているとはいえない。住民のニーズに対応できる博物館であることが必要である。

地域の現状と課題を把握し、多賀町がどのような将来像を描いて今後まちづくりを進めていくのかという視点に立ち、これからの博物館の方向性を以下のとおりまとめた。

1. 博物館の現状と課題

(1) 現状

- ・豊かな自然を中心に、自然と歴史、文化を対象とした総合博物館である。
- ・ここ数年の入館者数は、年間1万6千人前後を維持している。
- ・企画展示や自然観察会等を開催するとともに、学校教育関係や各種団体の来館者に対し、教育普及活動を行っている。
- ・平成25年度より開始した「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト」を通して、多賀町の魅力を広く発信している。

(2) 課題

- ・住民が主体となる地域の博物館となっていない。
- ・常設展示の更新ができていない。
- ・資料の収集計画や収蔵保管計画が確立していない。
- ・収集した資料・情報の整理、情報管理活用が不十分である。
- ・関連機関等とのネットワークづくりが不十分である。

2. 博物館の役割、機能について

博物館が果たすべき役割と機能については、平成8年2月に策定された多賀町文化施設基本計画（以下「文化施設基本計画」という。）により以下のように定められている。

1) 総合的な博物館

豊かな自然を対象の中心にし、自然と人間の文化を総合的にとらえることのできる博物館をめざす。

2) 地域の博物館

住民が主体となり、地域の自然やそこに暮らす人々の歴史や文化をグローバルな視点から明らかにする場をめざす。また、子供からお年寄りまで、すべての世代の人が気軽に訪れ楽しめる空間を提供することを第一に考え、さまざまな知的要求にこたえられる博物館とする。

3) 参加型の博物館

住民が、運営、展示、調査・研究など、博物館のすべての活動に参加できるようにする。さらに、住民の独自の活動を博物館が積極的に支援できるようにする。人と人、人と自然の交流を活発に行える創造的空間の実現をめざすものとする。

4) 情報を発信する博物館

多賀町と、その周辺地域の多様な情報を収集・整理できる施設をめざし、それに基づいて住民が中心となって様々な活動を進めることを支援する博物館とする。また、そのような活動の中で集まる生きた情報を、地域のみならず世界へ発信できる博物館をめざす。

今後の方向性

この文化施設基本計画に定められた役割、機能については大きな変更の必要はない。めざす博物館の実現にむけて計画を立て、実施する。さらに、新しい博物館の役割として多賀町地域全体を対象とした「多賀まるごとミュージアムプロジェクト※」の中心となる施設として、人、資料（史料）、情報、他施設など様々なものを結びつける役割を担っていくことが求められる。まちづくり、人づくりの拠点として地域を活性化させる施設となることを期待する。

※「多賀町まち・ひと・しごと創生総合戦略」（平成28年2月策定）39頁より抜粋

施策⑫ 多賀まるごとミュージアムプロジェクト

豊かな地域資源を活かした町内の様々な組織の連携による多賀町全域をミュージアム（博物館）としたグリーン・ツーリズムを促進します。このため、多賀大社を含む中心市街地・河内の風穴・ダイニクアストロパーク天究館・あけぼのパーク多賀・高取山ふれあい公園などの地域資源の連携のあり方などを含む観光推進計画策定、史跡発掘ツーリズム、農家民泊推進、情報発信、施設整備、町史編纂など、協働により「多賀まるごとミュージアム」の実現に向けて行動します。

事業

前述した今後の方向性を推進するため、下記事業の計画実施が必要である。

(1) 資料収集保管事業

これまで収集してきた資料の整理作業に不備があり、文化施設基本計画に「住民の参加を積極的に呼びかけ、地域ぐるみで作る博物館をめざす」とあるように、収集整理に関わるサポート組織を検討し、地域の人を巻き込む必要がある。整理したものは報告書にまとめて公開し、研究や活用のための利用をうながす。また収蔵資料を展示等、公開方法を計画することで、計画的な整理業務を実施することができる。

(2) 展示事業

a) 常設展示

当博物館の常設展示は見やすく、子どもたちが自由に見てまわれるところが一番の魅力で、最新の研究成果等を含めた情報更新を随時行うなど、リピーターを増やす工夫が必要である。

b) 企画展示

企画展示を通して住民が情報を共有し、交流できる機会をつくる。展示内容は、住民が興味を持ち、身近に感じるものを企画する。

町の課題などを、わかりやすく伝えることは博物館の大切な役割のひとつである。子どもたちが科学技術や自然に親しめるような展示なども企画する。大学や研究機関等と連携し展示を行うことで、新しい分野の展示も可能となるばかりでなく、併せて研究者等の成果発表の場所を提供することができる。

(3) 調査研究事業

調査研究活動は博物館の展示や博物館の活動に関わってくる重要な事業であるが、これまでの調査成果のまとめや資料公開が不十分であるので、住民が主体となって行う調査研究や研究者の支援を行うためにも、現在収集している情報を適切に整理して公開する必要がある。

また、住民や大学、研究機関等と協働して調査研究活動を行っていく必要がある。

(4) 交流事業

a) 園・学校支援事業

博物館の展示、所蔵資料を活かした特徴ある学習支援プログラムを開発・提供することで園・学校の利用を促進させる。町内の園・学校へ出前授業や移動展示などを行い、子どもたちに博物館を身近に感じてもらい、博物館への来館につなげていく。

b) 生涯学習支援事業

子どもから高齢者まで、あらゆる世代の学びと交流を促進するために講座、企画展等を開催する。日常の中で体験して生じた疑問などを気軽に学芸員に質問ができる環境を作ることによって、リピーター増加につながることを期待される。

また、地域住民の博物館との関わり方を見直し、博物館活動を活発に展開するために、住民がイベントの指導者、協力者などとして参加・協力できる仕組みづくりの必要がある

(5) 広報活動

中央公民館と連携しながら、町内の多様な情報を共有できるように効果的に情報発信を行う。そのためには多様な媒体を活用して情報発信ができる人材を養成する必要がある。

3. 博物館の施設について

(1) 施設の活用

住民や研究者の調査研究支援を推進するため、実験室等の博物館施設を活用していく必要がある。

また、園・学校が教育活動の一環として博物館を利用する場合は、従来どおり引率者の入館料減免措置や学習指導、展示解説などの積極的な支援を行い、利用を促進する必要がある。

(2) 施設整備

来館者が快適に学び、過ごしていただくために、展示設備や施設設備の更新が適宜必要である。外国人・障がい者の方が来館されても対応できるようにサイン・展示等への配慮を行う。

4. 博物館の運営体制について

(1) 運営主体

文化施設基本計画では、「博物館は、継続的な活動を実施する必要がある、安定した財政基盤の確保という面から、町の直営方式とする。」と定め、開館当初から今日まで町の直営で運営を行ってきた。安定、継続した活動を実施していくために今後も町の直営方式としていく必要がある。また、文化施設基本計画に掲げた博物館法上の登録博物館に指定される目標は未だ実現できていないが、博物館の水準の維持、向上に努めるために登録博物館指定をめざす必要がある。

(2) 職員体制

当答申に掲げた博物館の役割、機能を実現していくためにも、経験の豊富な専任館長と専門的な技能をもった専任の学芸員4名と事務職員1名が必要である。

(3) 図書館・文化財センターとの関係

あけぼのパーク多賀内にある組織として、密接に連携し、協力して一体的な事業運営体制を実施する必要がある。

おわりに

本答申では、開館以来の課題の解決に向けた取り組みと、町が進めている「まちづくり、ひとづくりに資する施設」を目指し、方向性を提言した。

平成 31 年には新しい中央公民館が開館し、あけぼのパーク多賀は共にこれからの多賀町の生涯学習を担っていくことになる。この中で、博物館は多賀町の豊かな自然と歴史・文化の情報拠点として重要な役割を担うことになり、「多賀まるごとミュージアムプロジェクト」や、平成 29 年に策定され日本遺産登録へとつながる「多賀町歴史文化基本構想」において、中核施設としての役割を果たすものである。

今後の博物館に求められる活動は、博物館の持つ役割を十分に認識し、多賀町の将来計画を具現化する担い手となることである。

多賀町立博物館協議会委員

会 長	田村 幹夫	堆積環境研究会
副会長	中川 信子	多賀植物観察の会
委 員	東 幸代	滋賀県立大学准教授
同	井上 尚世	多賀町立大滝小学校校長
同	土田 雅孝	多賀観光協会事務局長
同	丸尾 恭子	利用者代表

多賀町立博物館協議会における審議の経過

第1回委員会	平成28年	6月15日	博物館の現状と課題
第2回委員会	平成28年	9月 1日	博物館の役割、機能について
第3回委員会	平成28年	12月 5日	博物館の施設、運営体制について
第4回委員会	平成29年	2月10日	答申案検討